

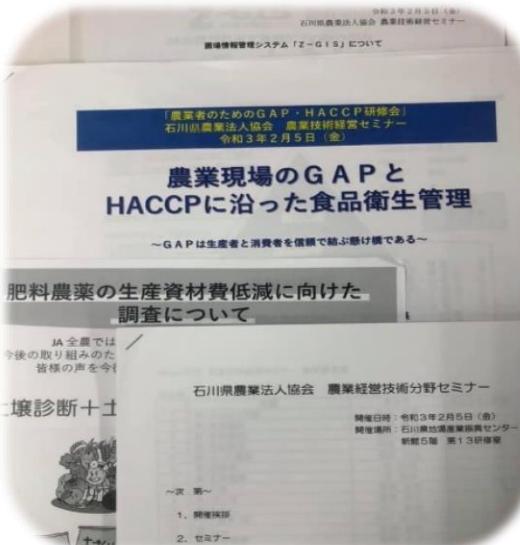
# いしかわ農業法人だより

Ishikawa Agriculture Corporation Magazine

発行 石川県農業法人協会 いしかわ農業総合支援機構内 発行人 佛田利弘  
〒920-8203 石川県金沢市鞍月2丁目20 Tel076-225-7621 Fax076-225-7622

## 技術経営委員会分野セミナーを開催

2月5日(金)に技術経営委員会(委員長:濱田栄治氏)主催の農業経営技術セミナーが開催されました。今回のセミナーではGAP、HACCP、農福連携(農業×福祉)の取組み、園芸施設共済について知識を深めました。セミナーの開催にあたり、濱田委員長からは「自らの生産管理について学ぶ良い機会となった。更に知識を深め、農場で実践していかなければないと気が引き締まった。また、昨年末からの大雪でパイプハウス等に甚大な被害が出た。NOSAIが運営する園芸施設共済の制度が改正されたことで施設に対するリスクヘッジの関心も高まったと思う。」とコメントいただきました。



## 「夢コンテスト2040」(有)かわに 河二利勝氏 1年越しの挑戦

3月1日(月)に日本農業法人協会が主催する「夢コンテスト2040」がオンラインで開催されます。当コンテストは若手農業経営者が20年後のビジョンを語る企画であり、本県から(有)かわにの河二利勝氏が北信越ブロック代表として発表します。昨年、コロナ禍で一時延期となりましたが、1年の時を経てのリベンジマッチとなります。今回、新たにコロナ禍における農業経営についても内容を加えているとのことで、グランプリ獲得が期待されます。

なお、本コンテストはYouTubeでライブ配信されます。日本農業法人協会のHPで3月1日(月)14時45分から配信予定です。(以下のQRコードからアクセスできます。)



### 当日の発表者はこちら

※発表順ではありません

ブロック	発表者名	法人名	タイトル(予定)
北海道・東北	(株)やまがたさくらんぼファーム 矢萩 美智		4度目の大ピンチ!コロナ危機から学んだ未来の農業のカタチ
関東	(株)リコベル	米田 茂之	20年後の経営ビジョン
北信越	(有)かわに 河二 利勝		22歳の若僧が大ボラを語る
近畿	(農)丹波たぶち農場 田渕 真也		縦の農業
中国	(有)岡山県農商 板橋 良樹		農福連携をもとに考える今後の発展
四国	(有)檍山農園 檍山 直樹		2040年ビジョン
九州・沖縄	(株)アグリ・コーポレーション 佐藤 義貴		20年後の経営ビジョン

## “結のココロ”～能登半島地震から14年～

2007年3月25日、能登半島沖合で震度7の大きな地震が発生しました。復興が進んで穏やかな日々を取り戻していく中、当時の記憶は反比例するように薄れていくものです。今回は能登半島地震の震源地でもあった輪島市門前町の(有)ファーマー代表取締役 宮崎数馬氏（当協会副会長）にお話を伺いました。

### ～衝撃の連続と人間の無力さを実感～

当時、私は自警団活動で消火栓等の点検をしている真っ最中でした。そして9時41分、あの大地震が発生しました。あまりにも突然の出来事でパニック状態になり、その場に伏せることしかできませんでした。目の前で次々と倒木や家屋の倒壊が発生し、ただただ唖然としていました。その時、家屋から飛び出してくる子供達を見た、彼らの元へ必死で走り、抱きかかえていたのを覚えています。這いつくばってでもその子達に駆け寄り、「何とか安心させてあげたい」という一心でした。

その後自宅に戻り、家族の安全を確認して直ぐにパトロールに出動しました。その時的心境は自社のことではなく、人命が何よりも第一だと思っていましたが、同時にパトロールしかできない己の無力さを痛感していました。



### ～連携や信頼から生まれた「がんばる米」～

法面や水路の崩壊、圃場の基盤が割れる等、農地にも甚大な被害が発生しました。近隣の農業者に中には施設が倒壊するなどの被害を受け農業を辞めようとネガティブになっている人もいました。（農）モロオカエーシー（当協会会員）もその一人でしたが、諦めずに頑張ろうと励まし、復興を願い「能登がんばる米」の生産・販売を企画しました。今一度立ち上がる時が来たと心に決めた瞬間でした。

一方、私自身も地域活動を精力的に行ってきましたが、いざとなると何も出来ていないと落ち込んでいました。そんな私を奮い立たせてくれたのは、24時間以内に駆けつけてくれた県内外のレスキューの方々でした。

その時、改めて人との繋がりの大切さや思いやりに対しありがたみを感じ、胸が熱くなりました。「自分たちにとって出来ることは何か？」と考えた末に行動したのは、農地に対する復興支援でした。農業を諦めて欲しくないと自社が所有する大型トラクタで近隣農家の耕起・代掻きを率先してお手伝いさせていただきました。今でも元気に農作業に勤しんでくれている皆の姿に喜びを感じます。

### ～変化する意識と伝える義務～

私は日頃から「連携」「信頼」「継承」を行動の軸にしています。

それは震災が教えてくれたかけがえのないものだと思っています。前記したとおり、人の思いやりの気持ちや信頼はお金で買えるものではありません。震災を経験したからこそ人に優しくなれた、と私自身の心境にも変化が起きたと感じています。さらに、日々の生産活動の中でも緊急連絡先の確立や水路の目地を点検する際の見方等、危機管理に対する考え方は大きく変わりました。技術経営委員会で開催するGAP等の勉強会は非常に有意義なものであり、今後も重要な考え方になると捉えています。



私の息子も就農し徐々に「経営の継承」が行われようとしています。

作業内容や経営管理の「継承」も大事なことではありますが、この震災で学んだことや当時の様子も同様に後世に対し継承していく必要があると考えています。だからこそ法人協会での地区活動には人一倍強い気持ちがあります。雑談でも何でも良いので、それぞれにコミュニケーションが取れることが「連携」や「信頼」に繋がっていくと確信しています。私にとって3月25日は特別な日です。営農計画をリセットするのではなく、心をリセットし初心に帰って新たなスタートを切ることができます。

### ～結びに～

月日が流れるのは早いものであれから14年が経過しようとしています。被災された方々には改めてお悔やみ申し上げます。能登には「結」があるとよく言われます。助け合いの精神や仲間と切磋琢磨しながらこれからも明るい未来の為に我々農業法人も日々精進して参ります。

## JJA全農インターナショナル(株)と米の輸出について情報交換

1月13日に北陸農政局の方をお招きし「新市場開拓に向けた水田リノベーション事業」の説明会を開催した後、米の輸出について勉強したいとの意見が多数ありました。そこで、全農石川県本部のご協力を得て、2月19日（金）にJJA全農インターナショナル(株)とオンラインにて情報交換会を開催しました。会員10名とJJA全農インターナショナル(株)の他、全農本所、全農石川県本部の方々にも参加いただきました。

まず、JJA全農インターナショナル(株)より米の輸出における現状報告があり、新型コロナウイルスの影響で米の輸出量の増加率が鈍化したこと、海外でも業務需要が減り、家庭消費にシフトしているとのことでした。また、海外での輸出事業者間での競争が激化していること、コロナ禍で新規商談が難しい状況であることが伝えられました。

意見交換では、海外で求められる品種や価格についての質問、石川県の米生産者として米の輸出についてどういった戦略（ブランド化、独自ルートの開拓、全国と連携等）を立てるべきか等の議論がありました。

最後に、佛田会長から、水田リノベーション事業のためだけでなく、今後も引き続き関係者で意見交換を実施していくことが提案され、閉会となりました。

米の輸出につきましては、今後も勉強会などを開催していくことで、ぜひご参加ください。



## 資格取得要望調査アンケートの結果

技術経営委員会では、1月22日に石川県労働基準協会様のご協力のもと「刈払機取扱作業従事者安全衛生教育」を実施し、大変好評であったことから、今後もこのような講習会を実施し農場運営のご支援及び農作業事故の未然防止につなげていきたいと考えております。

そこで、先般、正会員の皆様を対象に資格取得要望調査アンケートを実施しました。正会員67社のうち25社から回答があり、その結果を簡単に報告します。

### <アンケート結果の概要>

- ・9割以上の法人が、農場運営において各種資格を取得することの必要性を認識
- ・しかし、必要な資格取得に向け計画を立てている法人は約2割にとどまる
- ・当協会主催で資格取得に向けた講習会等を開催した際に、参加を希望する法人8割
- ・各法人が取得を目指している（必要と考えている）資格 トップ5

- 第1位 フォークリフト運転技能講習
- 第2位 大型自動車運転免許
- 第3位 農薬管理指導士
- 第4位 乾燥設備作業主任者技能講習
- 第5位 玉掛け技能講習



アンケートにご協力いただいた正会員の皆様、誠にありがとうございました。なお、本アンケートの結果を参考に、関係機関と連携して、各種講習会の開催や資格取得に向けた情報提供につなげていきたいと思います。

## 会長コラム ~農業安全に対する取り組み~

3月になり今年の耕作も本格化してきます。先日、職業訓練の講師から話を聞く機会があり、全産業での労災死亡者が1,000人程度に対し、農業での労災死者は300人を超えるという指摘がありました。特に農業法人は、雇用も多く経営者の安全管理が特に求められます。技術経営委員会では、刈払機取扱作業者安全衛生教育を独自に開催しました。受講するとその重要性がわかります。死亡事故にも繋がりかねない刈払機ですから、今後も協会として、他の資格も含めて、安全教育の推進に取り組むことが急がれます。

会長理事 佛田利弘

本だより配布対象：会員・賛助会員・アグリサポート会員・各関係機関

会員の皆様へ

「いしかわ農業法人だより」のメール配信を希望する方は、協会事務局の（南出、島田）までご連絡お願い致します。 e-mail : [shimady.inz.or.jp](mailto:shimady.inz.or.jp)